

フクタニュース

発行



日本人として

東日本大震災から10年が経ちました。発災当時、日本全国が不安や絶望であふれていた中で、助け合う心や譲り合う心、同情心、あわれみといった惻隱の情を日本人は根底に持つていて、その想いが強まっているのだということを気づかされた出来事でした。

現状から少しでも良くなることに喜びを感じ、それを糧とした1日の積み重ねが10年となつたように思います。人の往来や交流が分断された当時とコロナ禍で漠然とした不安を抱える現在は似ているのかもしれません。フクタという法人として、善良な日本人の遺伝子を發揮し、社会に貢献していくよう努めなければと10年の節目に思います。



～ネットでGO～



「石は硬くて重いもの」という特性を生かして、馬仙峡大橋の橋脚の洗掘防止の根固め材として、栗石をネットに詰めて使ってもらいました。ネット詰めなので現地盤の凹凸に対応でき、さらにそれぞれを連結することで相当の流速にも耐えられることになります。いいことづくめですが、経年でどのようになるか観察したいと思います。



建設機械の未来



キャタピラ社製ホイールローダー950GCをデモさせていただいた。ホイールローダーは対象物をすくい、持ち上げ、運搬して覆す機械である。今回のデモ車は、その機能以外の仕様を極力そぎ落とした機械である。運転席室内もいたってシンプルで昭和の雰囲気が漂う。建設機械も脱内燃機関や電子制御化という技術革新を迫られている。使う側の目線で見ると、使わない（使えない）機能は余計なものである。機能限定の質実剛健さも忘れてはならないのかもしれない。そんなことを考えさせられるデモ車であった。

編集後記

ついにホームページできました！

この度、公式ホームページを作成いたしました。フクタグループのほぼ全てを知ることが出来てしまします！このフクタニュースもちょっと恥ずかしい1号から見ることができます。更に産廃の処分や福田運送の運搬許可書も載っております。ご利用下さい。

ホームページURL <https://hukuta.com/>

第14回 日本ミックスダブルス カーリング選手権大会の審判



チーム苦米地

2月23日～28日まで青森市で行われた表題の大会に、審判員として行ってきました。今回の大会は無観客で行われ、選手、審判などのスタッフ、報道関係者の全員がPCR検査を受けての開催となりました。結果は「吉田・松村」ペアが

優勝、「松村・谷田」ペアが準優勝でした。ミックスダブルスは4人制カーリングとは違い2人で行い、4人制のような派手さはありませんが、非常に繊細なショットが要求されより高度な技術が求められます。松村雄太選手は札幌のコンサドーレのスキップであり、先日の4人制でも優勝し北京オリンピックの出場を決めたばかりです。準優勝の松村千秋選手は、その妹で中部電力のサードのポジションでこちらも有名ですね。中部ブロック代表の軽井沢C.Cというチームは松村兄弟の父母のチーム、もう一人弟さんはアイスマイクで参加していたので家族全員で日本選手権大会に参加するという快挙でした。

さてさて、東北ブロック代表は「チーム苦米地」14回中4回優勝しておりますが今回は4勝2敗と惜しくも予選敗退でした。苦米地ペアは初代チャンピオンですが、ミックスダブルスがオリンピック種目になってからは4人制のトップ選手がペアを組んで出場するようになり、優勝することは非常に難しくなりました・・・

もう一つありました。優勝した松村雄太選手と吉田夕梨花選手は義理の兄弟、吉田夕梨花選手の姉が松村選手の奥さんなんですね。なんだかこうしてみるとカーリングって狭い世界だなあ～



～令和3年天台寺地震～

2月19日18時11分、運転手の皆さんもほとんど帰ってきて、そろそろ寝る支度をしようかなと思っていたら、ドッカーンと音が（したように感じた）して、ガッタンガッタンと数秒間地面がゆれた。流れ星でも落ちたか？ちょっとパトロールしてこうかなと思っていたら、地震速報が出た。震源地は二戸市浄法寺、震源の深さは10km、規模はマグニチュード3.9、震度は4の地震だったことが分かった。大震災以来、地震はモックモック、ユッサユッサの感覚だったが、震央付近のエネルギーの荒々しさを感じる地震だった。後で調べたら、マグニチュード3.9のエネルギーは、爆薬10.7トン分相当だそうだ。その破壊力によって天台寺参道入口の金剛力士像の両足首が折れ、倒されてしまった。猫の手を貸して起こしてあげたいところだが、腰を痛めうなうのでやめることにする。その代わり「令和3年天台寺地震」と命名して記憶にとどめておくことにしよう。

今月の一言 「災害は、忘れなくともやってくる」

